



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです



～公立黒川病院～ ブース活動を開始いたしました。



公立黒川病院様外観

公立黒川病院様は、仙台市北部と大崎市南部に隣接し、宮城県のほぼ中央部に位置しております。黒川地域を構成する富谷市・大和町・大郷町および大衡村において唯一の公立病院です。理念である「すべては地域の皆さんのために」のもと、急性期医療や救急医療、回復期医療、在宅医療、予防医療を提供されており、1日約260名の患者さんが来院されています。

事務局では、これまで仙台圏や東北圏の病院を中心に加入活動を展開してまいりました。この度、圏域をまたいだ連携強化の一環として、4月より公立黒川病院様の正面入口横に加入窓口（ブース）を開設させていただきました。週3日、午前中のみ活動ではありますが、過去にあまりMMWINについてご案内を受けていらっしゃらない患者さんも多く、大変有意義な活動を実施いたしております。

今回の加入活動に関して、地域医療センター長の横道 弘直先生からコメントをいただいておりますので、ご紹介いたします。また、患者さんからの声もご紹介いたします。

横道先生のコメント

私たちの病院は、急性期から在宅までさまざまな患者さんに対応するため、日々、病院内外の多職種と連携しています。連携には情報共有が必須ですが、MMWINはそのための有用なツールとして期待しています。加入活動を実施したことにより、今年度4月、5月のMMWINの新規加入者が281名と増えており、今後、必要な情報をどのように利用するか、病院として考えていきたいと思っております。



院内待合室でご説明の様子

患者さんの声

- 「今後の安心のために加入する」「将来的に安心する」
- 「こういう取り組みは必要。介護施設ももっと増やしてほしい」
- 「自分の病歴とか飲み薬など、わかってもらえて安心する」



一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】

TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313

E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】

TEL : 022-399-6880 E-mail : support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



MMWIN通信は最新号からバックナンバーまで当協議会ホームページに掲載しております

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信 みんなのみやぎネット® NEWS

2024
6.21
vol. 77

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

救急疾患患者発生時におけるMMWINの活用法

東北大学病院 心臓血管外科様では、循環器救急疾患患者発生に際し早期に患者情報、特に検査画像を共有する手段としてMMWINをご利用いただいております。MMWINを利用する以前の課題や、救急時にMMWINを利用するメリット、術後における病診連携の在り方などについて准教授の熊谷 紀一郎先生にお話を伺いました。



東北大学病院 心臓血管外科
准教授 熊谷 紀一郎先生

救急時の病病連携

当科では県内全域の医療機関からコンサルトを受けていますが、口頭説明のみで患者さんの状態を把握しなければならないケースもあり、患者さんの受入れ前に検査画像を確認できれば、以前から画像が共有できるような病院間のネットワークの必要性を感じておりました。特に大動脈解離は、症例により治療方法が異なることが多く専門的な判断が必要である上、時間的猶予が短いという問題があります。



画像ビューアのイメージ

StanfordA型と診断された場合、患者さんが運ばれて手術台に上がるまでの時間が重要です。このことは当科が中心となり東北6県の全大学病院を含む心臓外科13施設とともに行った大動脈解離のレジストリであるTRADの結果が証明しております。MMWINを利用し、事前に患者さんの検査画像を確認できれば、搬送中に緊急手術に必要な準備のほとんど全てを行うことができるため、到着後速やかに手術室に搬送することができます。

一方で、StanfordA型という診断自体が誤っていたり、緊急手術を必要としない症例の場合もあります。先日、夜間帯にStanfordA型の触れ込みで搬送依頼がありましたが、MMWINでCT画像を確認したところ、明らかにStanfordB型であったため、不必要な緊急搬送と手術準備を避けることができた事例がありました。また、外傷性大動脈損傷の患者さんについて相談を受けた際には、画像からステントグラフト内挿術（TEVAR）の緊急手術適応と判断し、相談があった病院に手術指導に向き救命できたという例もありました。このように、速やかに専門医が画像診断を確認することで、手術を受入れる側の準備のほか、患者さんの負担軽減という点においてもメリットがあります。

術後の病診連携

手術・退院した患者さんはクリニックで管理してもらうこととなりますが、定期的な検査は当院で行います。MMWINに参加している医療機関に戻られる患者さんにはMMWINに加入してもらい、紹介状には「MMWIN登録しました」と記入しています。そうすることで、当院で撮影したCT画像やレポートなどはMMWINを介しつつでも見られるようにしています。逆にクリニックで検査した採血データなどは患者受入れ時に参考にしたいですね。

今後について

実際にMMWINを使い始めてから、救急時の活用でかなり役立っています。現在はみやぎ県南中核病院、石巻赤十字病院、気仙沼市立病院、大崎市民病院、栗原市立栗原中央病院などの地域基幹病院との連携が中心です。県内では心臓血管外科医がいる病院や、手術をできる病院は限られますので、この運用であれば患者さんがどの地域で発生してもある程度対応でき、相手方病院と綿密な連絡を取り治療に関与できます。そのため、連携先をもっと他の病院にも広げていけたらと思っています。



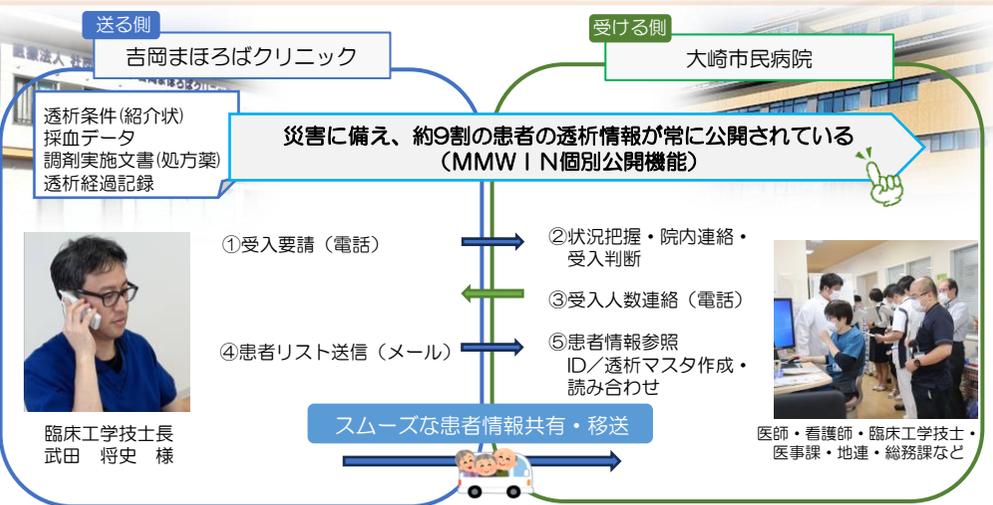
MMWINを使った透析患者の情報共有

災害に備えて

2024年5月29日、大崎市民病院様と吉岡まほろばクリニック様の間で、MMWIN透析連携システムおよび個別公開機能を用いた透析患者の受け入れ訓練が実施されました。

背景には、吉岡まほろばクリニック様が2015年の東北豪雨、2019年の台風19号で被災し、他院へ透析維持要請を行なった際、患者情報（約50名分）のFAX送信に多くの時間と労力を要した経緯があります。

今回の訓練では同規模の災害を想定し、双方の施設での動きや課題などを確認しました。



実際の効果とレビュー（課題）

	項目	Before (2015被災時)	After (今回)
吉岡まほろばクリニック	透析情報送信 (20~30人分)	6時間	40分~1時間 (一人あたり2~3分)
	<ul style="list-style-type: none"> 大幅に時間と手間が減り、実際の災害時対応に役立つと感じた。 災害時のFAX送信は本当に苦労したので、定期的に訓練を行ないたい。 シナリオの時間設定が不明だった為、より詳細な打合せが必要だった。 		
大崎市民病院	患者カルテ・透析マスタ作成 (20人分)	5~6時間	2~3時間 (一人あたり10分)
	<ul style="list-style-type: none"> FAXが来るまでの時間を短縮できるので、初期動作を早くできる。 患者リストが分かりやすく、情報の引き出しがスムーズにできた。 リストの内容とサマリの探し方に課題があり、次の訓練で改善したい。 		



各市町村
ハザードマップ
(宮城県HPより)

災害大国とも言われる日本では、昨年だけで2,227回の地震（うち41回は震度4以上）が発生しており、大雨による浸水被害も含めるとその数は毎年増加傾向にあります。近年では東日本大震災の記憶も薄れつつある中、災害時に備えたデータのバックアップと情報共有の重要性について、もう一度見直すお手伝いをさせていただければ幸いです。



MMWIN活用事例インタビュー

一桝新生薬局様



一桝新生薬局様外観

2024年度の調剤報酬改定では、主に在宅医療やかかりつけ薬局に焦点が当てられ、地域医療の推進や医療のデジタル化への対応などの見直しが行われました。実際に患者さんやご家族、施設関係者との関わりにおいて、コミュニケーションツールの一つとしてMMWINを活用されている、一桝新生薬局 管理薬剤師 千田 奈緒美様に、MMWINの活用についてお話を伺いました。

【MMWINのメリットと具体例】

「医師の処方意図が汲み取りやすい」

患者さんに処方変更があった際、薬局ではその理由までわからない事が多いですが、本人やご家族の話と食い違いがある時は疑義照会をしないといけないのですが、MMWINで検査値を確認することで医師が薬を変えた経緯がわかり、問い合わせを減らすことができます。

例えば、先日ある患者さんが貧血薬の処方箋を持ってこられました。実はそれまでずっと注射で対応していたということ、MMWINを見て初めて知ることができました。

また、別の日は転倒された患者さんのご家族が、軟膏の処方箋を持ってこられました。どの程度のケガか処方箋だけではわからなかったのですが、MMWINで画像や検査値、医師のコメントを見て、ご本人の様子を想像することができました。



管理薬剤師

千田 奈緒美様



【入所施設とのコミュニケーションツールとしても活用】

「入所施設の職員にも説明できるので、安心してもらえる」

施設に入所されている患者さんの通院にご家族が同行された際、医師の説明を誰も把握できていないことが多くあります。施設の職員（看護師）さんも、検査結果の紙を見ただけではわからない時もあり、そういう場合には、薬局でMMWINを使って検査値や医師のコメントを確認し、「こういう理由で薬が変わったようですよ」と説明しています。

それはMMWINに加入しているご本人やご家族、入所施設の職員さんにとって、大きな安心につながっているようで、「MMWINに入っているから検査値を見てもらいたい」というご要望を多くいただいております。

一桝新生薬局では、かかりつけで来られている患者さんに、MMWINの加入をお勧めしています。

厚生労働省が推進する「薬局DX化」の一環として、「ICTの活用による服薬指導の効率化」が示されております。薬局業務が多様化する中、作業負担軽減のツールの一つとして、MMWINを活用いただければ幸いです。

また、2024年秋には毎年好評をいただいております「第4回 保険薬局のためのMMWIN活用WEB講座」を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

